

チーム名	明治大学木寺ゼミナール DEAR IwaKi	大学名・学部	明治大学・政治経済学部 政治学科/経済学科/地域行政学科	福島復興ステージ
プラン名称	つながりtie~家族で祝おう2分の1成人~			
テーマ	復興に向け前向きに取り組んでいる方と連携した「観光まちづくり」			
リーダー名	高野 柊文	メンバー名	芦野 真琴、天野 拓海、坂倉 琴音、新保 景土、高橋 陽乃、筒淵 朱音、 原田 茉依、守屋 朱莉	
指導教職員名	木寺 元			

観光まちづくりとは

観光客と地域の人が笑顔になること

ふくしま12市町村の課題

- ・観光客が福島12市町村に来るきっかけが少ない

解決策

- ・10歳、20歳という節目の年に着目し、福島に来るきっかけを創出すること

浪江町と大熊町を選定した理由

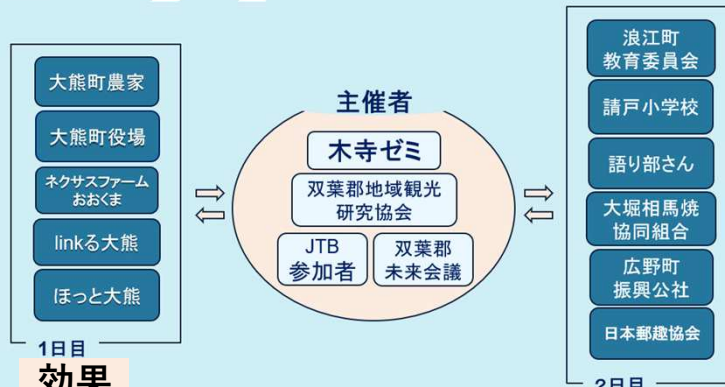
- ・浪江町は、「日常」の幸せを改めて感じる事が出来る
- ・大熊町は、コミュニティの再生が急速に進み、工夫して農業をしている人がいる

新規性

- ・震災後の世代、特に小学4年生に着目したこと
- ・2分の1成人を祝うコンセプト
- ・10年後にもつながるプラン
- ・各プランの個性
- ・次世代SNS(4kiz)の活用
- ・JTB参加者を巻き込んだ、運営事務局の設立

ターゲット

- 東京圏→テレワークの増加
- 小学4年生→震災後の世代、2分の1成人
- 家族→家族の絆を深めたい
2分の1成人を祝いたい



1日目 効果

- ・ふくしまへの興味関心の創出
- ・震災の記憶の継承
- ・1年間で4545万円の経済効果
- ・2つの新たなふくしまイメージの形成
 - ①家族の絆が深まる場所
 - ②10歳、20歳という節目を祝う場所
- ・10年単位で発展するふくしまの発信
- ・関係人口の増加（運営者・参加者）
- ・地域資源の実用化
- ・風評被害の軽減
- ・観光分野における浜通りの活性化

プラン詳細

浪江町と大熊町にて2分の1成人を祝いながら家族の絆を深めるプラン

《大熊町》

- ・農業体験・カレー作り→地域の人と交流
- ・ケーキ作り→2分の1成人をお祝い
- ・光る☆ビニールハウス
- 10歳までの思い出をプロジェクションマッピングで振り返る

《浪江町》

- ・青いリボンプロジェクト@請戸小学校
- 家族の絆について考える時間に
- ・大堀相馬焼のぐい呑み作り
- 家族で震災から復活した伝統工芸品作り
- ・手紙とアルバム作り
- 広野町特産品のバナナを使用した和紙で、10年後の自分にメッセージ
- ・思い出をチェキに残す
- 10歳の私と20歳の私をアルバムに載せる

10年後…成人祝いの20歳家族旅行

- ・アルバムの完成
- 浴衣前撮りで家族写真
- ・時をつなぐサンクスメッセージ（AR技術）
- 10年前の自分と一緒に家族に感謝を伝える
- ・作ったぐい呑みでお酒を酌み交わそう

ふくしまと将来の興味関心へとつながるきっかけとなるプランを提供します